

2026年1月26日

各 位

会 社 名 株式会社 Veritas In Silico  
代表者名 代表取締役社長 中村 慎吾  
(コード番号 : 130A 東証グロース市場)  
問合せ先 執行役員 経営企画部長  
郷田 恒雄  
Email: [ir@veritasinsilico.com](mailto:ir@veritasinsilico.com)

## SpiroChem と Veritas In Silico、 mRNA 標的化合物の共同探索研究に関する覚書締結 完了のお知らせ

SpiroChem AG (本社: スイス・バーゼル、CEO: Thomas Fessard, PhD、以下「SpiroChem」と表記) と当社 (以下「VIS」と表記) は、mRNA 標的化合物の共同探索研究を実施することで合意し、覚書の締結手続が完了しましたので、両社連名にて以下お知らせいたします。

この共同探索研究は、SpiroChem が誇る世界的水準のクロサイクル、ペプチド、ペプトイドなどの化合物に対する深い知見と、VIS の AI 駆動型 mRNA 標的創薬プラットフォーム aibVIS や細胞実験技術を融合させ、世界最新かつ最高峰レベルの mRNA 標的低分子化合物医薬品の創出を目的とします。その研究成果は、将来的に共同で第三者へライセンスアウトすることにより収益化を目指します。

SpiroChem と VIS は、この共同探索研究の実施内容等について協議を重ね、2025年12月に基本合意のうえ、このたびの覚書締結に至りました。これは VIS の成長戦略にて KPI に設定している「新規契約の締結」に該当するもので、“2025年度（2025年12月期）に締結する新規契約（目標4件）”の3件目達成となります。

SpiroChem と VIS の連名による、この共同探索研究に関する発表は、次頁以降をご参照ください。

2026年1月26日

各 位

S p i r o C h e m A G  
株式会社 Veritas In Silico

## SpiroChem と Veritas In Silico、 mRNA 標的化合物の共同探索研究に関する覚書締結 完了のお知らせ

スイス・バーゼル および 東京にて— 2026年1月26日発表

当社（以下「VIS」と表記）は、SpiroChem AG（本社：スイス・バーゼル、CEO: Thomas Fessard, PhD、以下「SpiroChem」と表記）との間で、mRNA 標的化合物の共同探索研究を実施することで合意し、覚書の締結手続を完了させましたので、以下お知らせいたします。

この共同探索研究は、SpiroChem が誇る世界的水準のクロサイクル、ペプチド、ペプトイドなどの化合物に対する深い知見と、VIS の AI 駆動型 mRNA 標的創薬プラットフォーム aibVIS や細胞実験技術を融合させ、世界最新かつ最高峰レベルの mRNA 標的低分子化合物の創出を目的としており、両社は共同して有望な mRNA モチーフと相互作用する新規のマクロサイクル、ペプチド、ペプトイド、および Rule of 5<sup>\*1</sup> を超える新たな化合物の構造解析を探求する予定です。両社は、市場性の高い医薬品候補物質を生成し、RNA 認識における構造-活性相関の理解を深め、将来の創薬に役立つ設計基準の確立を目指します。

その研究成果は、両社共同でバイオテク企業や製薬会社との提携やライセンス供与ないし、共同開発等によって収益化を目指す方針です。

### ● SpiroChem AG CEO Thomas Fessard, PhD コメント（英文コメント抄訳）

この共同探索研究によって、VIS が持つ最先端の mRNA 構造解析技術や化合物最適化技術が、SpiroChem が持つマクロサイクルおよびペプチド化学における深い専門知識と融合します。私たちは共に、RNA 標的化合物のフロンティアを拓き、RNA モジュレーターにかかる全てのパートナーを後押しするような、高品質の mRNA 標的低分子化合物を提供できるよう取り組んでいきます。

### ● VIS 代表取締役社長 中村 慎吾 コメント

SpiroChem が持つ優れた低分子化合物ライブラリ、ディシナルケミストリーへの深い知見と、当社の AI 駆動型 mRNA 標的創薬プラットフォーム aibVIS との相乗効果によって、mRNA と化合物の新たな結合状態を評価し成熟させる強力な推進力となります。

この共同探索研究によって科学的知見が一層深まること、またの深化と協力の機会を期待しております。

## ● VIS の今後の業績に与える影響等

今般の覚書締結は、VIS の成長戦略にて KPI に設定している「新規契約の締結」に該当するもので、2025 年 2 月 13 日付『事業計画及び成長可能性に関する説明資料』でお知らせした“2025 年度（2025 年 12 月期）に締結する新規契約（目標 4 件）”の 3 件目達成となります。また本件共同研究を通じて生み出される低分子医薬品は、「自社パイプライン創出」に相当するものとなる見込みです。

この覚書締結に伴う契約一時金等の授受は予定しておりません。また VIS の 2026 年 12 月期の年度予算では、この共同探索研究に要する研究費用は織り込み済で、今後の業績に特筆すべき影響は生じないものと見込んでおります。

今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

## （ご参考）用語解説

\*<sup>1</sup> Rule of 5 : 1997 年に米国ファイザー（Pfizer Inc.）の研究者 Lipinski 氏らが提唱した、経口投与可能な医薬品となる可能性が高い低分子化合物を予測するための経験則で、主に創薬初期段階に「薬らしい」性質を持つ化合物をスクリーニングする指標として利用されます。

具体的には「分子量 500 以下」、「脂溶性 (cLogP) 5 以下」、「水素結合ドナー (OH と NH の合計) : 5 以下」、「水素結合アクセプター (N と O の合計) : 10 以下」の 4 つの指標が「5」または「10」にちなむ値以下であることを基準としています。これら 4 項目のうち 2 つ以上を満たすと「薬らしい」性質を持つ化合物と扱われます。

以上

## [お問合せ先]

- SpiroChem AG 問合せメール：Email [contact@spirochem.com](mailto:contact@spirochem.com)
- Veritas In Silico ウェブサイト お問い合わせフォーム：<https://www.veritasinsilico.com/contact/>